クボタ管理機

取扱説明書

TMB200

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた購入先**にお気軽にお申しつけください。

一般公道でのトレーラー走行はできません。
（本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。）
夜間作業はできません。
（本機は作業灯が装備されていません。）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた購入先にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
保証書はよくお読みいただき裏面の保証書 受領証サイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・4
安全ラベル・・・・・

やさしい点検・整備……34
エンジンオイルの交換……34
エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃……36
点火プラグの清掃・調整……38
耕うん爪(ロータ)の点検・交換……40

使用後の手入れ……42

長期間使用しないときの手入れ……43

故障のときは……45

車への積載のしかた……46
ハンドルにたたみかた……46
車の荷台への積載……47
乗用車への積載……47

主要諸元……48

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機を使用させないでください。特に子供には絶対に操作させないでください。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止を行ってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた購入先にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

警告

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジン　スイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故がおきやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、路面の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分におとし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。
  - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - ・本機を手で持ち上げて移動する場合は必ずエンジンをとめてください。本機を落下させたり車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、廻りに注意して行ってください。

警告

- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて安定した場所に置いてください。
- 爪(ロータ)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取り除いてください。
  - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすくまた気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。

警告

- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

警告

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音部)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディ　カバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引きおこすおそれがあります。

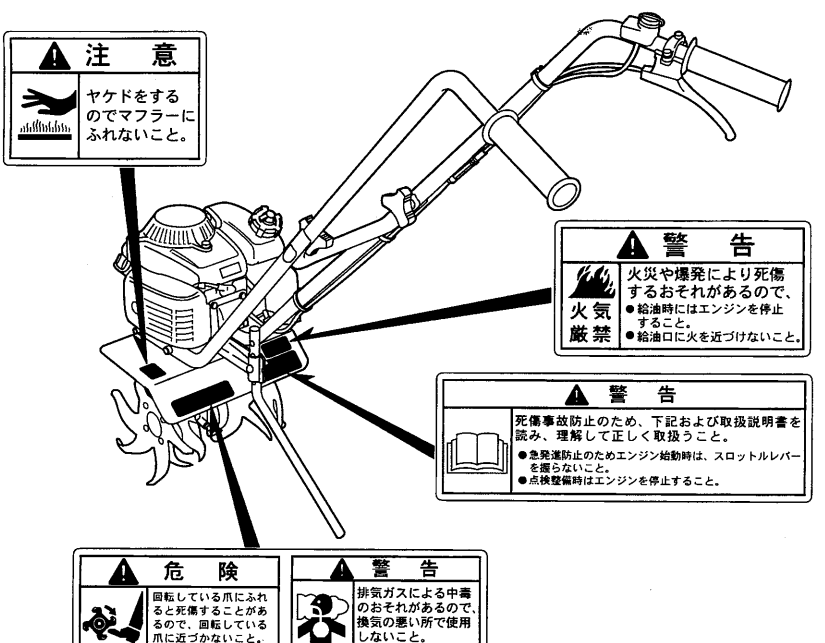
警告

●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かない様にしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・必ず２人以上で持って、車の荷台に載せてください。
  - ・エンジンは必ず停止してください。

安全ラベル

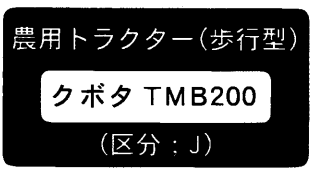
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ購入先にご注文ください。



サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた購入先にお申し付けください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



※ フレーム号機および銘板の表示
位置は13頁をご覧ください。
(参考:左の銘板はＪタイプの物です)

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

認定番号

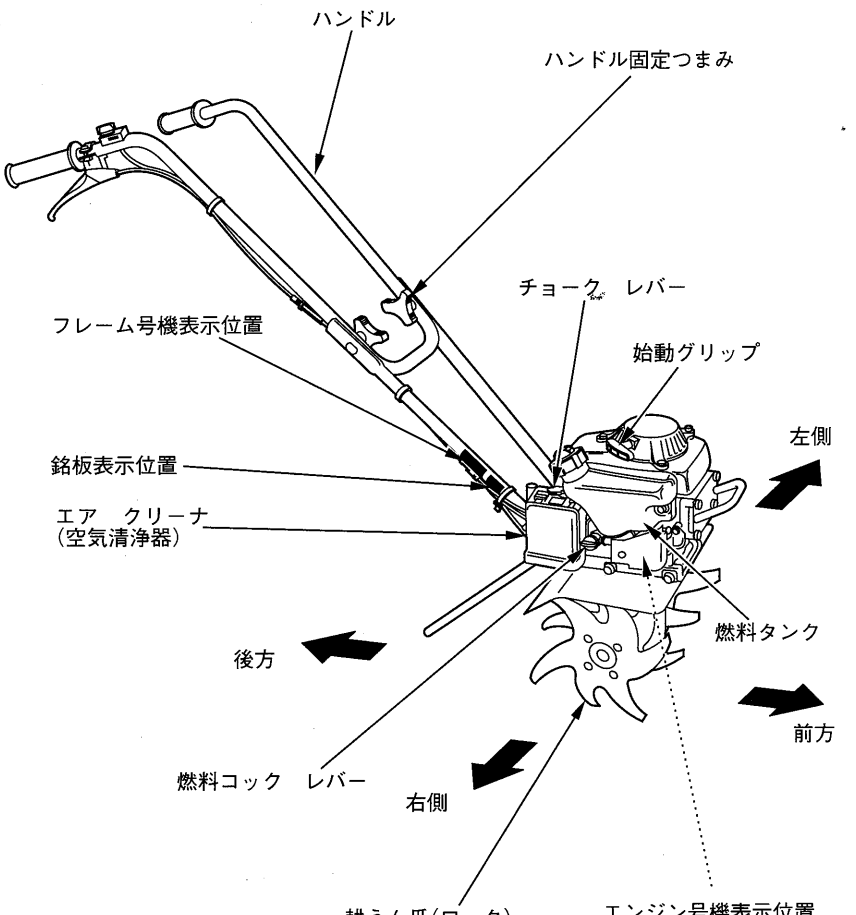
安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

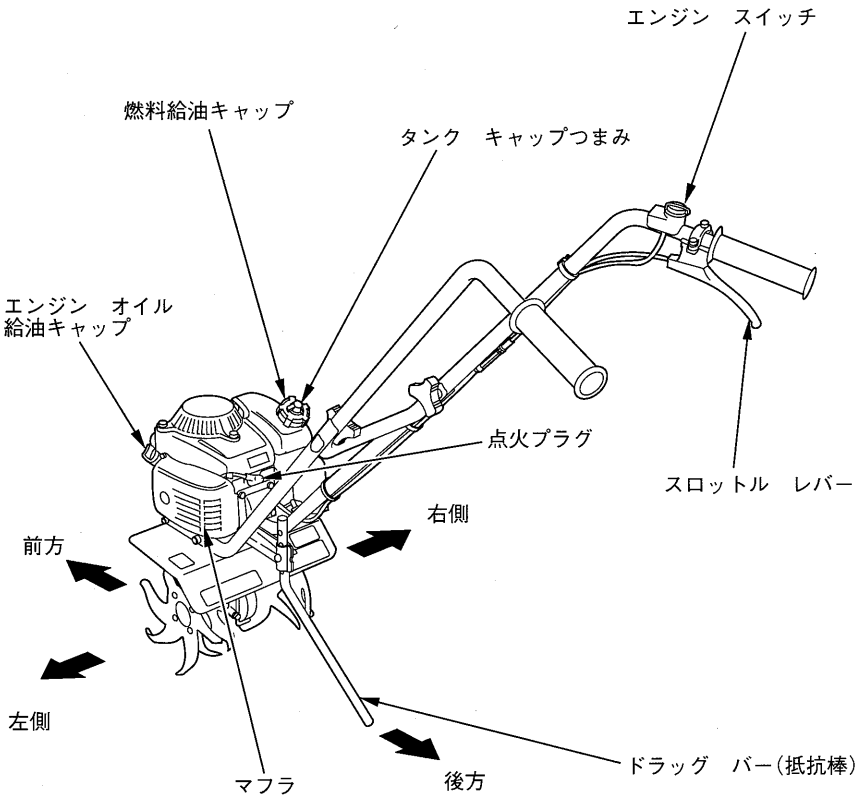
安全鑑定型式名	安全鑑定適合番号
クボタ TMB200	申請中

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた購入先**へお申しつけください。

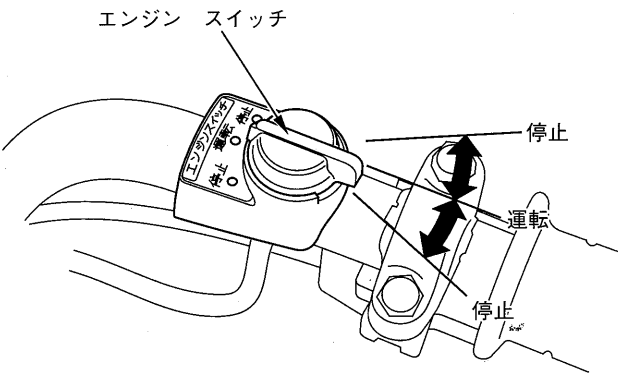
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




エンジン　スイッチ
燃料給油キャップ
タンク　キャップつまみ
エンジン　オイル
給油キャップ
点火プラグ
スロットル　レバー
右側
前方
左側
マフラ
後方
ドラッグ　バー（抵抗棒）

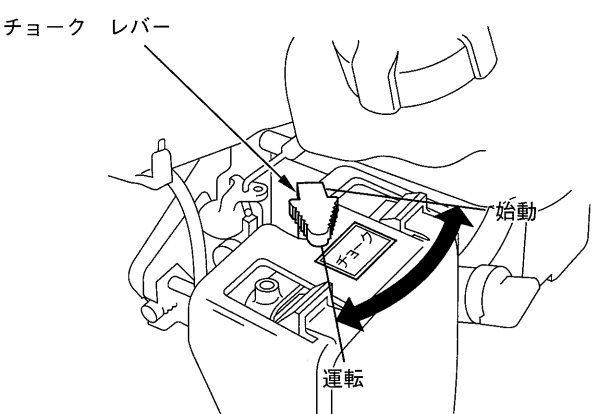
エンジン　スイッチ

エンジン　スイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



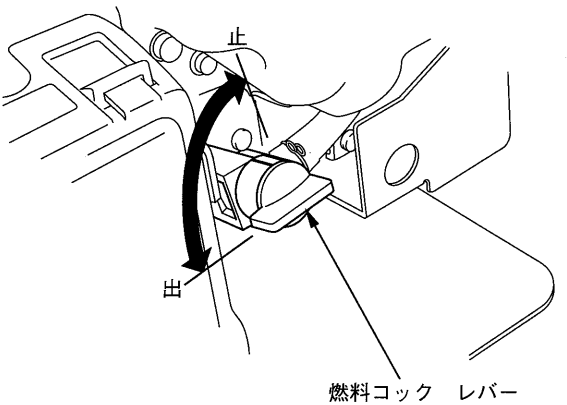
チョーク　レバー

始動時にエンジンが冷えているときにチョーク　レバーを**“始動”**の方向に操作します。



燃料コック　レバー

燃料コック　レバーは、タンクのガソリンを出したり止めたりするときに操作します。

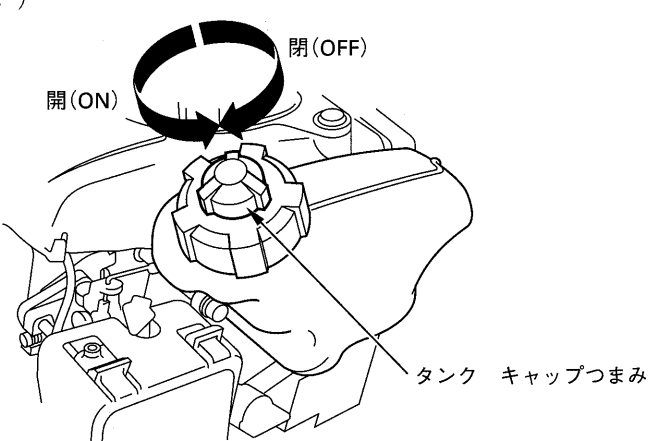


タンク　キャップつまみ

タンクキャップつまみは、燃料タンク内を大気としゃ断したり、通気したりする装置です。本機を運転するときに操作します。

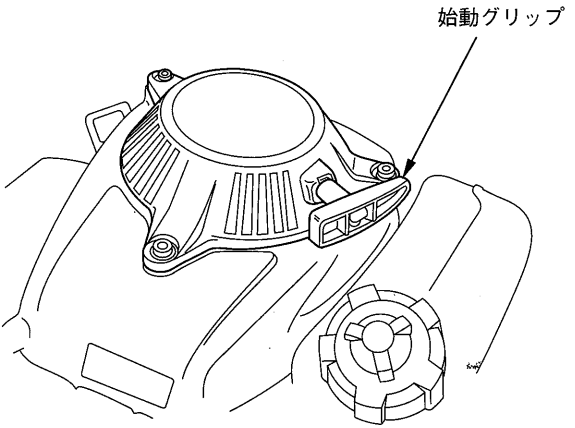
“開”(ON)... 本機を使用するとき、燃料を補給するとき(反時計方向に2～3回転させます。)

“閉”(OFF)... 停止時、運搬、保管時(時計方向に止まるまで回転させます。)



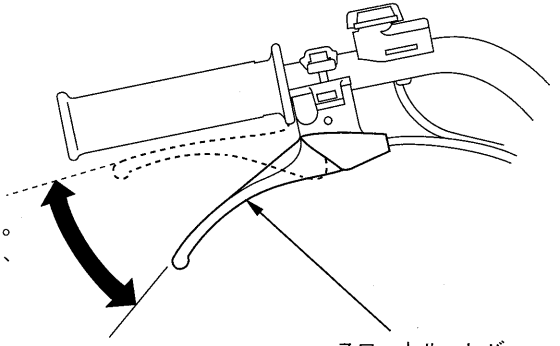
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



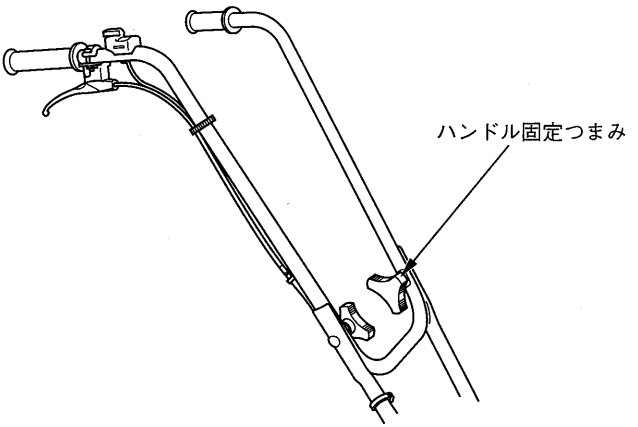
スロットル　レバー

エンジン回転を調整し、同時に車軸の動力を断接する装置です。



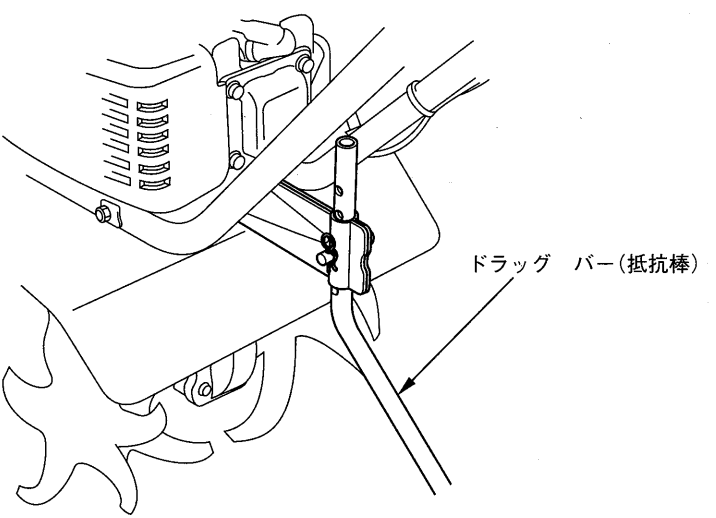
ハンドル固定つまみ

ハンドルを折りたたむときに、操作します。(ハンドルのたたみかたは46頁参照)



ドラッグ　バー(抵抗棒)

ドラッグ　バーの高さは作業者やほ場の状態に合わせて4段に調節します。(調整のしかたは30頁参照)



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……燃料の量(20頁参照)、オイルの量(23頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- レバーの作動……引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
- 各部の締付け……ハンドル固定つまみにゆるみ、がたはないですか。
  ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……被覆のやぶれ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止…エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は25～28頁参照)
  エンジン　スイッチで確実に停止しますか。(停止手順は31、32頁参照)

- その他異常を感じたらただちにお買いあげいただいた購入先へお申しつけください。

ガソリンの点検

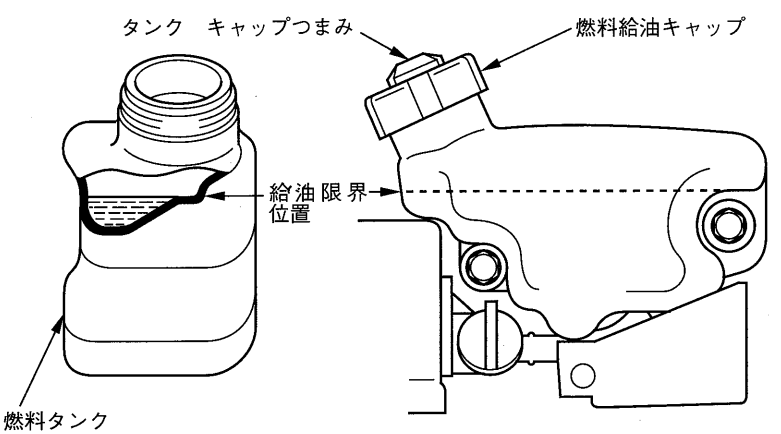
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。

点検

本機を水平にし、タンク　キャップつまみを反時計方向に2～3回転回して燃料給油キャップを外し、燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。



補給

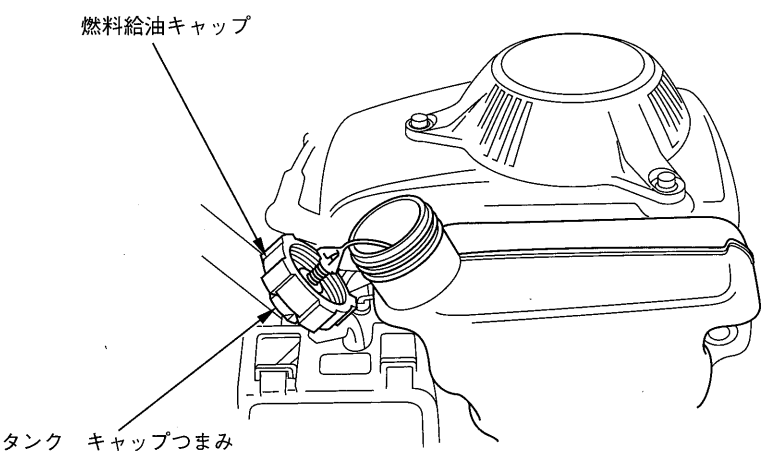
使用燃料：自動車用無鉛ガソリン

タンク容量：0.3ℓ

1. タンク　キャップつまみを反時計方向に２～３回転回し、燃料タンク内と外部の気圧差を取除きます。
2. 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
3. 補給後、燃料給油キャップを取付け、確実に締め付けてください。また燃料給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

取扱いのポイント

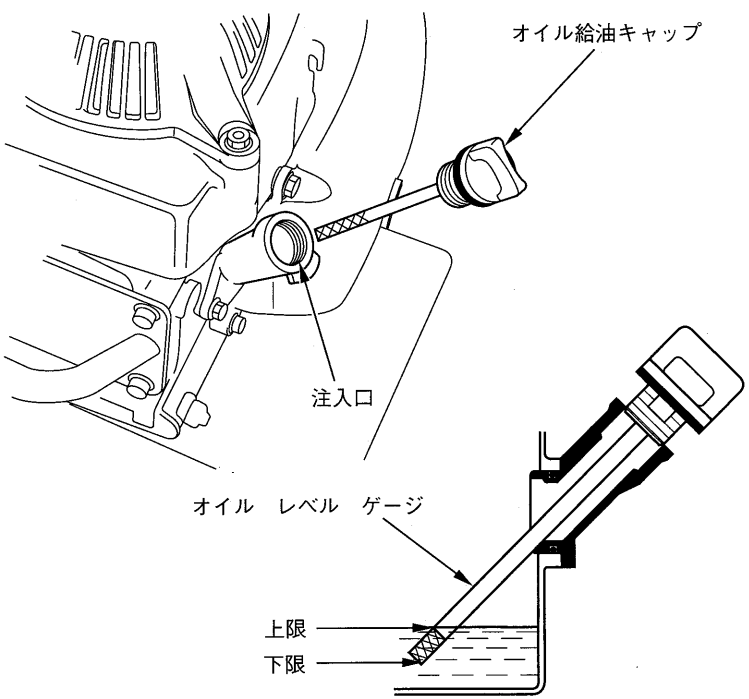
ガソリンにエンジン　オイルを混入した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりなどの原因となります。



エンジン　オイルの点検

点検

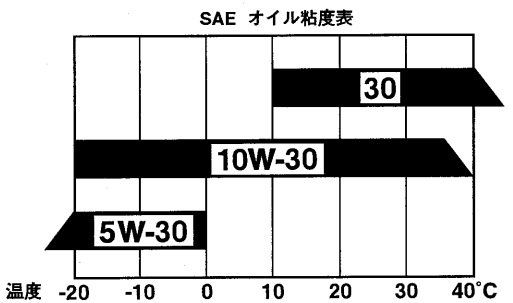
1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外します。
2. オイル給油キャップを外し、オイル　レベル　ゲージを拭き取ります。
3. オイル給油キャップをねじこまず、オイル注入口に差し込んで上限までオイルがあるか点検します。オイルが少ない場合は補給してください。
4. エンジン　オイルの汚れ、変色を点検します。汚れや変色が著しい場合は、エンジン　オイルを交換してください。(交換時期、方法は34頁参照)
5. 点検後、エンジン　オイル給油キャップを取付け、確実に締付けます。



補給

1. 新しいエンジン　オイルを上限まで補給します。
2. 補給後、エンジン　オイル給油キャップを取付け、確実に締付けてください。
   - 推奨オイル：(4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)
     クボタ純オイルG30
     またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン　オイル量：0.25ℓ



取扱いのポイント

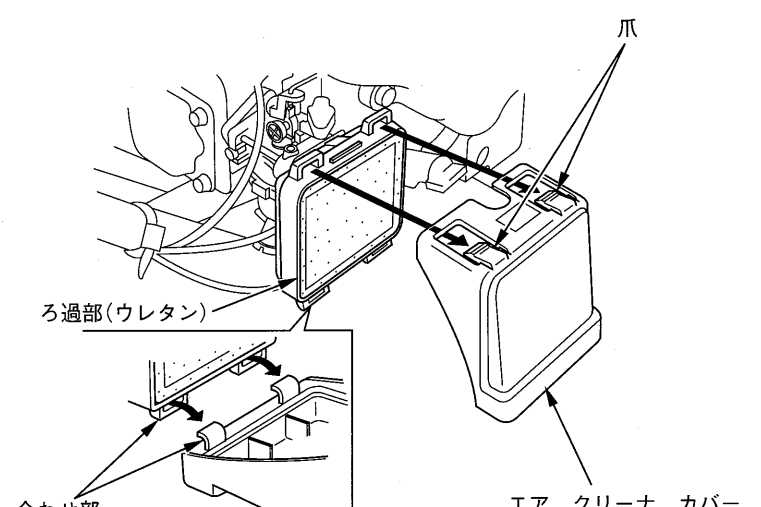
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。
- エンジン　オイルの補給はオイル容量が小さいため、少量に分けて注入してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

1. エア　クリーナ　カバーを取外します。
   エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。
2. ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(清掃方法は36頁参照)
3. エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   エア　クリーナ　カバーの取付けは、下部2か所の合わせ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。

取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

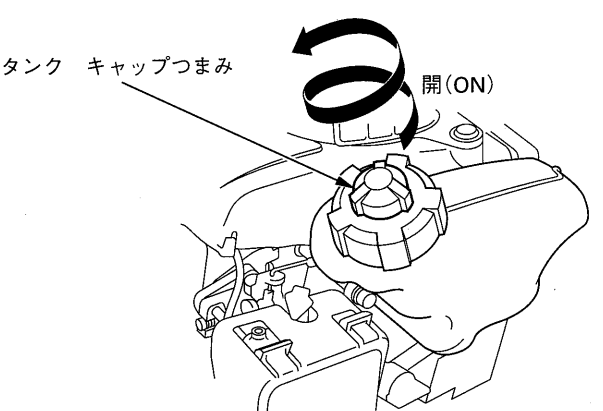


エンジンのかけかた

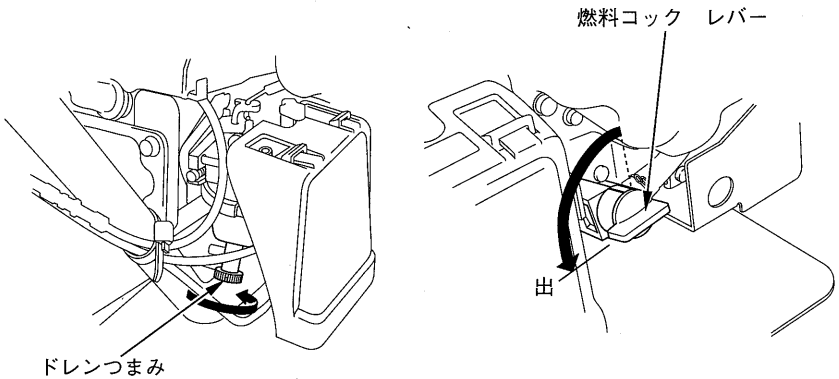
⚠警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 回りで作業をしている人がいたら回りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 始動時はスロットル　レバーを握らないでください。エンジン回転が上がり耕うん爪が回り、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

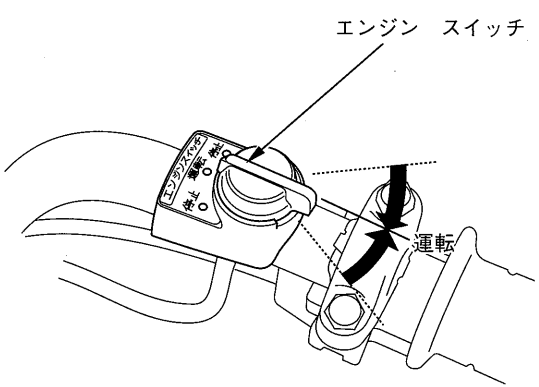
1. タンク　キャップつまみを反時計方向に2～3回転回し、**"開"(ON)**にします。
   タンク　キャップつまみを**"開"(ON)**にしないと燃料が供給されずにエンジンが停止します。



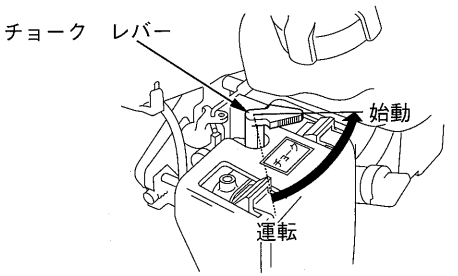
2. 燃料コック　レバーを“出”にします。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。



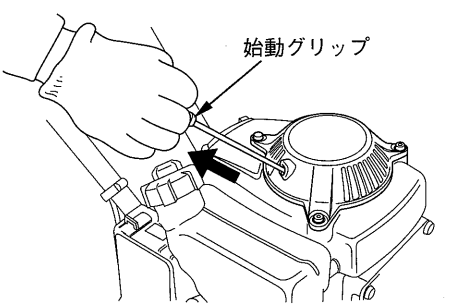
3. エンジン　スイッチを“運転”の位置にします。



4. 寒いときやエンジンがかかりにくいときには、チョーク　レバーを“始動”の位置にします。
エンジンが暖まっているときは、チョーク　レバーを“運転”の位置で始動します。



5. 本機をしっかり押さえ、始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。

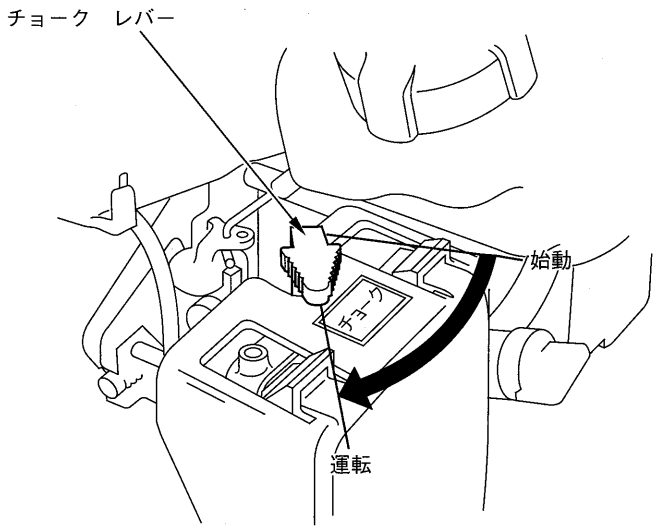


⚠注意
始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり放してください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

6. 2～3分間暖機運転を行います。チョーク　レバーを**“始動”**にしたときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

⚠注意

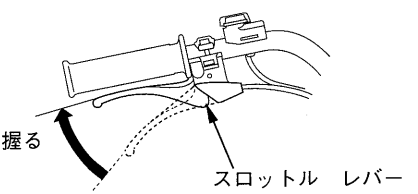
- 本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 本機を持ち上げるときはエンジンを止めてください。耕うん爪(ロータ)が回転し、衣類などを巻き込みケガをするおそれがあります。

スロットル　レバー

スロットル　レバーを操作することにより、本機の走行および停止が行えます。

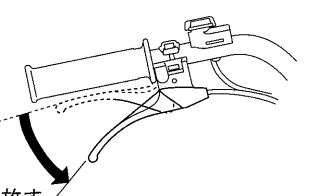
走行

レバーを握る→　エンジン回転が上がり、クラッチがつながり、本機が走行します。



停止

レバーを放す→　エンジン回転が下がり、クラッチが切れ、本機が停止します。



取扱いのポイント

- スロットル　レバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。急激な操作を行うと機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげいただいた購入先にお問い合わせください。

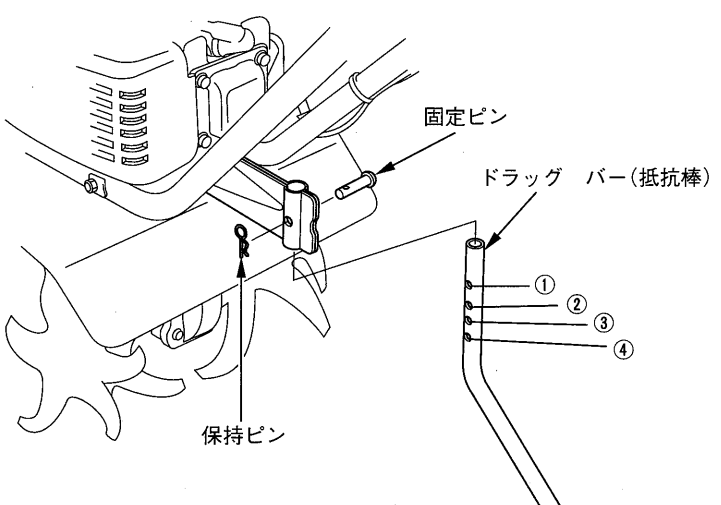
ドラッグ　バー(抵抗棒)

作業者の背の高さや体格およびほ場の状態によりドラッグ　バーの高さを調整します。
通常耕うんする場合は、ドラッグ　バーを②か③に取り付けます。ほ場が硬くロータが前に進みすぎる場合や、ハンドルが低くて使いにくい場合は、ドラッグ　バーを①に取付けてください。
軟らかいほ場で、ロータが沈んで前に進まない場合や、ハンドルが高くて使いにくい場合は、ドラッグ　バーを④に取付けてください。

調整

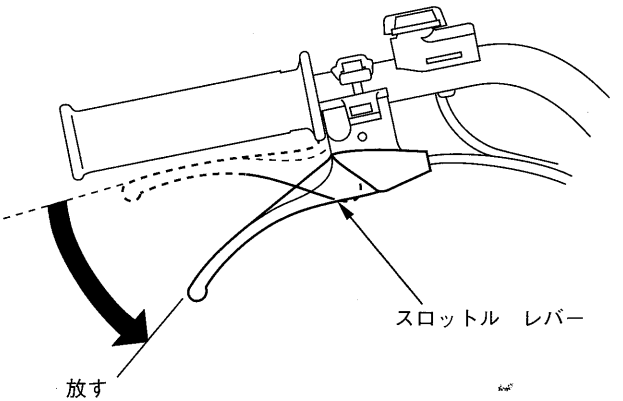
1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外します。
2. 燃料給油キャップ、エンジン　オイル給油キャップが確実に締まっていることを確認し、本機を前方に倒します。
3. 保持ピン、固定ピンを外し、ドラッグ　バーの高さを調節します。作業に合わせて4段に調節できます。

⚠注意
調整は必ずエンジンを停止してから行ってください。

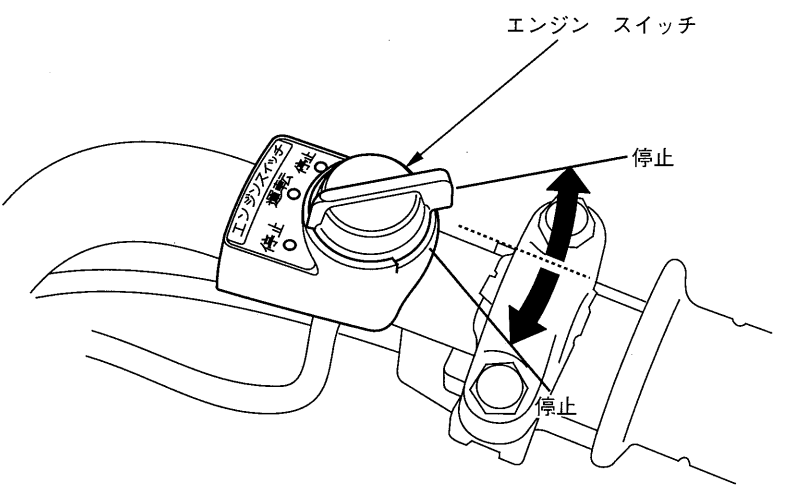


エンジンのとめかた

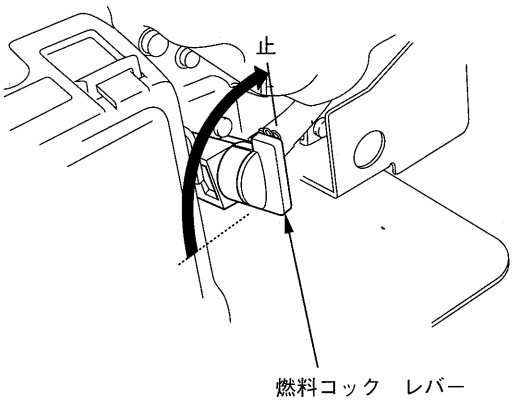
1. スロットル　レバーを放します。



2. エンジン　スイッチを“停止”に合わせます。



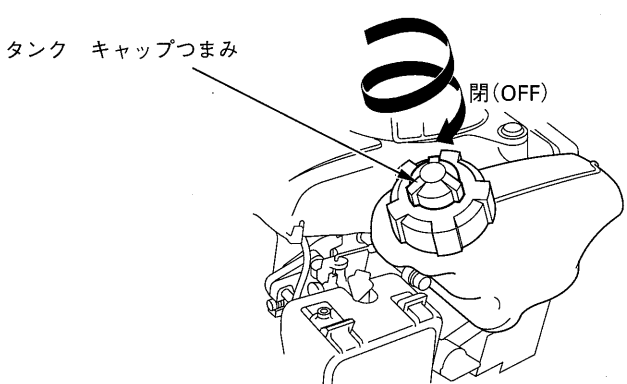
3. 燃料コック　レバーを“止”に合わせます。



4. タンク　キャップつまみを時計方向に止まるまで回し“閉”(OFF)にします。

⚠注意

本機を運搬するときや、保管および点検整備時には燃料漏れを防ぐためにタンク　キャップつまみを“閉”にしてください。こぼれた燃料が引火することがあります。



定期手入れを行いましょう

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時間		作業前	シーズン前年１回	初回10時間目	25時間運転毎	参照項
エア　クリーナ	点検	○				24
	清掃				○＜注１＞	36
本機の周り	点検	○				19
レバーの作動	点検	○				19
各部の締付け	点検	○				19
エンジンの作動	点検	○				19
配線、ケーブル類	点検	○				19
燃料タンク、燃料フィルタ	清掃		○＜注２＞			－
スロットル　ケーブル	調整		○＜注２＞			－
エンジン　オイル	点検	○				22
	交換			○	○	34
点火プラグ	清掃				○	38
	調整				○	39
燃料チューブ	点検	２年毎＜注２＞				－
	交換	４年毎＜注２＞				－

〈注１〉ほこりの多い作業のときは頻繁に清掃してください。
〈注２〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげいただいた購入先へお申しつけください。

⚠警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外して行ってください。

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

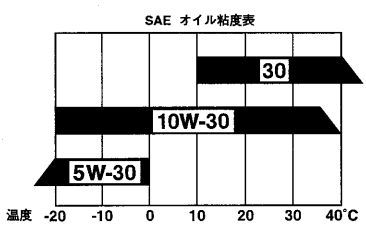
⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

《交換時期》　初回：10時間目、以後25時間運転毎
（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）

《推奨オイル》　クボタ純オイルG30
またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《エンジンオイル量》　0.25ℓ

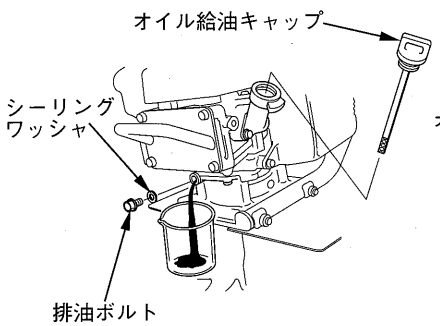


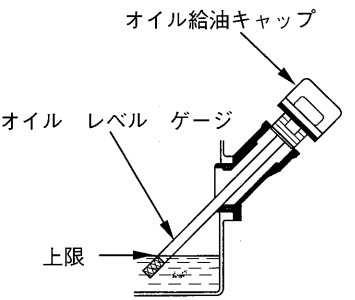
取扱いのポイント

寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。

《交換のしかた》

1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外します。
2. 燃料給油キャップが確実に締まっていることを確認します。
3. オイル給油キャップ、排油ボルトを外し、本機を前方に傾けてオイルを完全に抜きます。オイルは容器に受けてください。





4. 新しいシーリング　ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
5. 新しいエンジン　オイルをオイル　レベル　ゲージで確認しながら上限まで注入します。
6. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

取扱いのポイント

- エンジン　オイルの補給はオイル容量が小さいため、少量に分けて注入してください。
- 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア　クリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

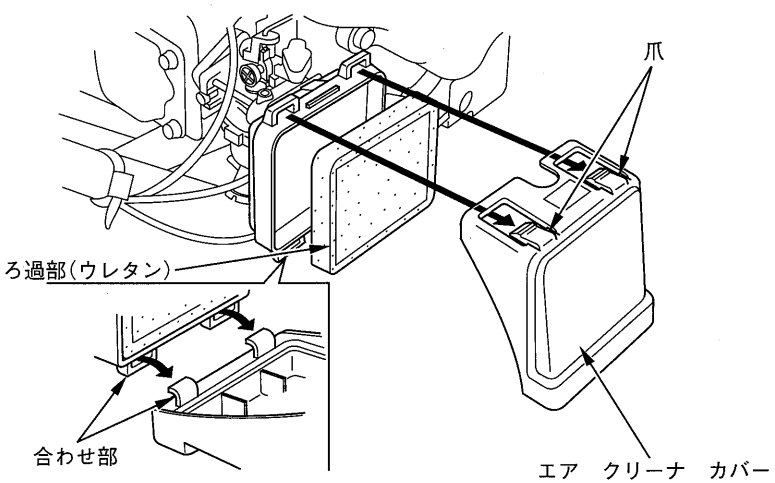
⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

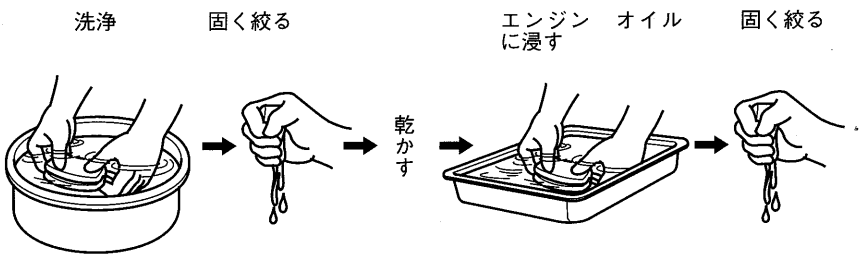
《清掃時期》　25時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は頻繁に清掃してください。

《清掃のしかた》

1. エア　クリーナ　カバーを取外します。
エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。



2. ろ過部(ウレタン)を取外し、洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞って乾かします。



3. ろ過部(ウレタン)をエンジン　オイルに浸した後、固く絞ります。
4. ろ過部(ウレタン)をエア　クリーナに取付けます。
5. エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   エア　クリーナ　カバーの取付けは、2か所の合わせ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行ないます。

取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの清掃・調整

電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

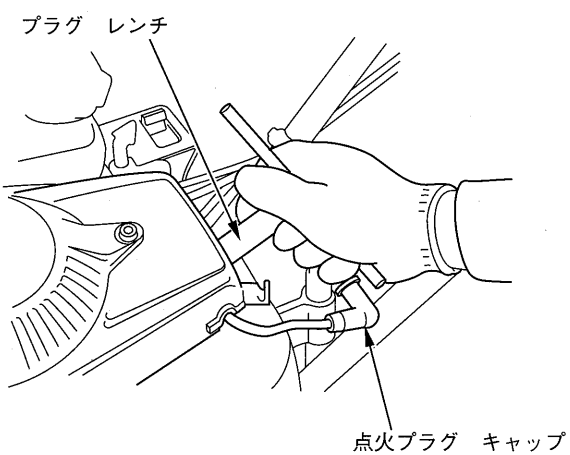
⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています、やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

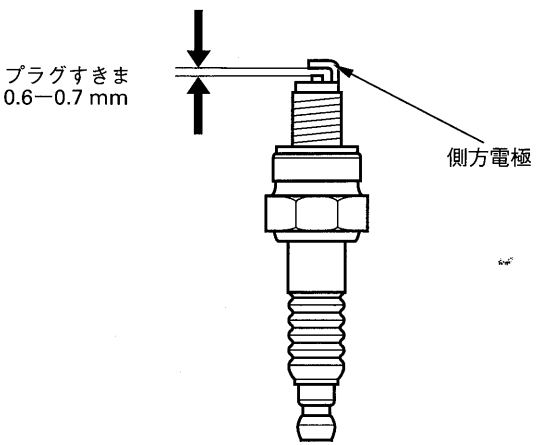
《清掃時期》 25時間運転毎

《清掃のしかた》

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを取外します。
2. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを清掃します。
   プラグについているカーボンを、針金かワイヤ　ブラシで落としてください。



《調整のしかた》
側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
火花すき間：0.6－0.7 mm
《標準プラグ》
C4HSB (NGK), U14FS-UB (DENSO)



プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。

取扱いのポイント

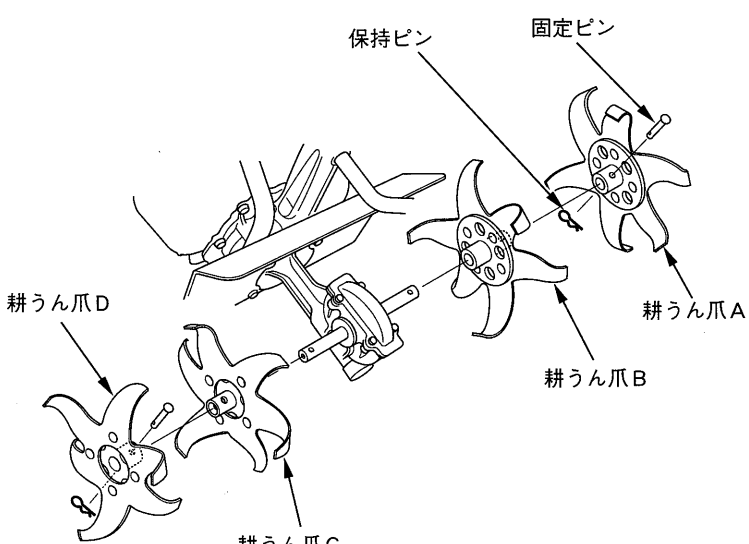
- 故障の原因となるので標準以外のプラグを使用しないでください。
- プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

耕うん爪(ロータ)の点検、交換

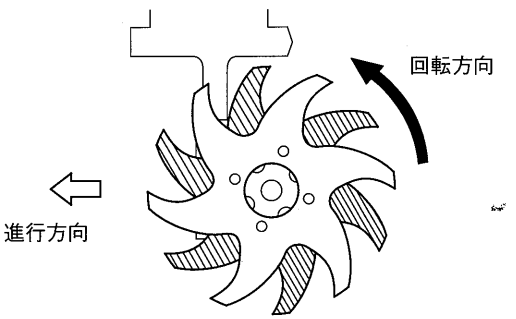
⚠注意
耕うん爪の取外し、取付けを行うときは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

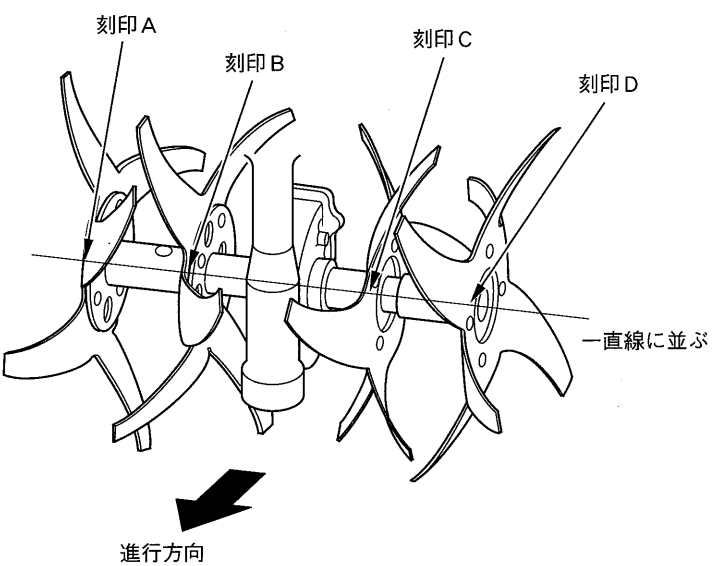
《点検のしかた》
1. 耕うん爪の損傷、曲がりがないか点検してください。もし異常があったときは交換してください。
2. 耕うん爪軸の保持ピン、固定ピンに脱落、変形がないか点検してください。必要であれば新しいピンを補充、交換してください。

《交換のしかた》
1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外します。
2. エンジン　オイル給油キャップ、燃料給油キャップ、タンクキャップつまみが確実に締まっていることを確認し、本機を前に倒します。
3. 保持ピン、固定ピンを外し、耕うん爪(ロータ)を外します。



4. 耕うん爪を取付け、固定ピン、保持ピンを取付けます。
耕うん爪の各刻印が右側よりA、B、C、Dの順に横一直線に並ぶように取付けてください。





使用後の手入れ

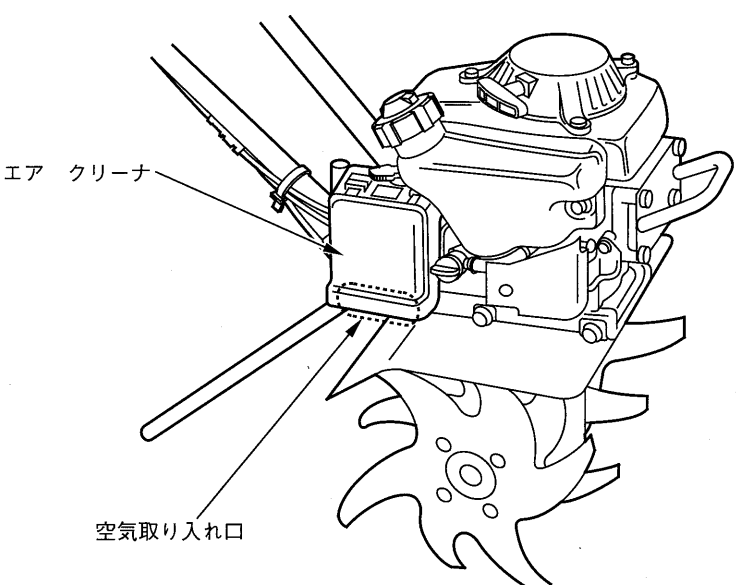
⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

1. 本体やロータ部分についた土、わら、草やよごれなどを落としてください。
2. エア　クリーナについた土やほこりを落としてください。

取扱いのポイント

洗車する場合はエア　クリーナの空気取り入れ口や電装部品、エンジン周りに水がかからないように注意してください。水がかかると故障の原因となります。



長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠注意

- 手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を置き、エンジンを停止してください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外して行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてから手入れを行ってください。やけどをするおそれがあります。

1. 本機各部の清掃を行います。
2. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)内のガソリンを下記の要領で抜きます。

⚠警告

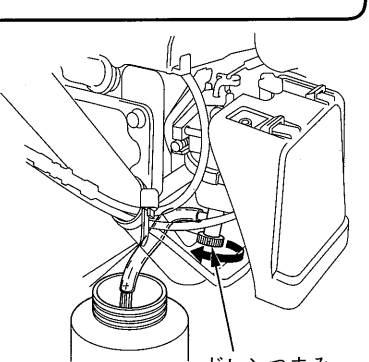
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《抜き方》

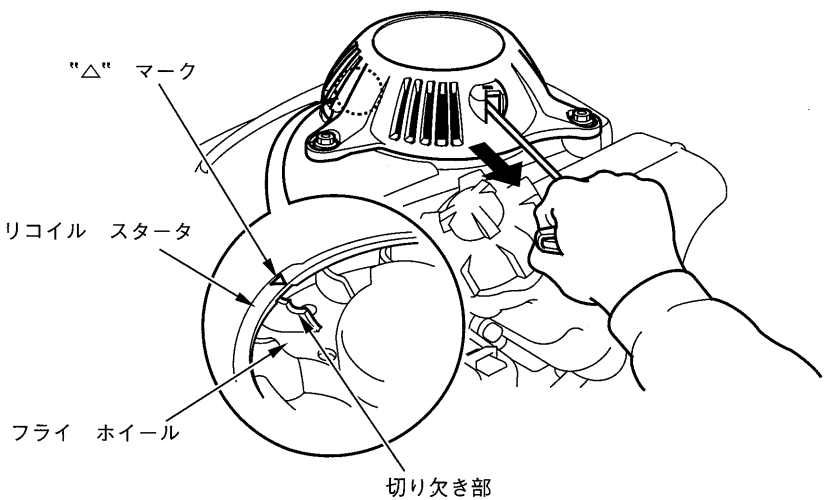
1) タンク　キャップつまみを２～３回反時計方向に回し"開"にし、燃料コック　レバーを"出"にします。

2) キャブレータのドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を1～2回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。



3) 完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
4) 燃料コック　レバーを**"閉"**にし、タンク　キャップつまみを確実に閉めます。

3. エンジン　オイルを交換します。(交換方法は34 頁参照)
4. エア　クリーナを清掃します。(清掃方法は 36 頁参照)
5. 始動グリップを引きフライ　ホイールのファンの切り欠き部をリコイル　スタータ　ケースの"△"マークに合わせます。



6. チョーク　レバーを**"始動"**の位置にします。
7. シートなどをかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管してください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげいただいた購入先へお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?(25～28頁参照)
2. ガソリンはありますか?(20頁参照)
3. エンジン　オイルは注入口、上限までありますか?(22頁参照)
4. 点火プラグは汚れていませんか、点火プラグから火花は出ますか?(38頁参照)

点火プラグの火花確認手順

－1. 点火プラグから点火プラグ　キャップを外します。
－2. 点火プラグをエンジンから取外し、点火プラグ　キャップに取付けます。
－3. 点火プラグ穴から離れた場所で、点火プラグのネジ部をエンジン本体に確実に接触(アース)させます。感電を避けるため点火プラグキャップ以外には触れないでください。
－4. エンジン　スイッチを始動の位置にして始動グリップを引き、そのとき点火プラグの電極に火花が出ることを確認してください。

- 火花が出ないときは新しい点火プラグと交換するか、お買上げいただいた購入先にご連絡ください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

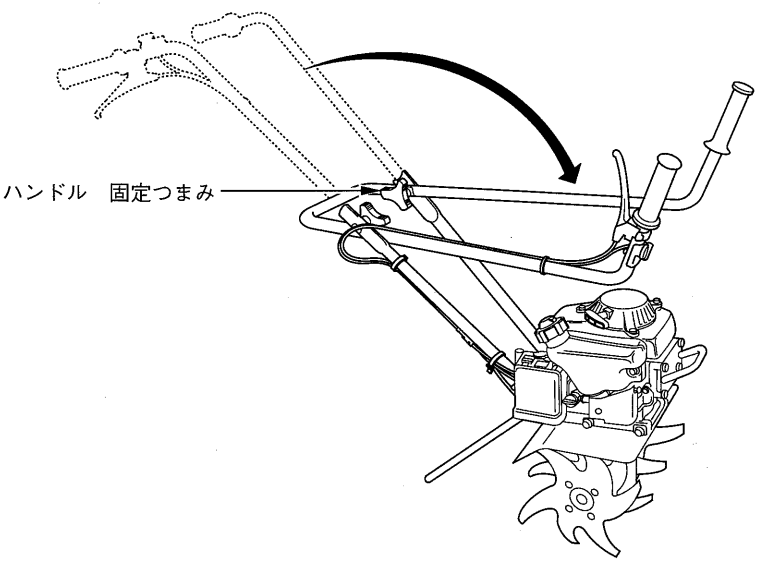
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **燃料がこぼれた場合は点火プラグの火花確認やエンジンを始動する前にふき取り乾いてから行ってください。ガソリンに引火するおそれがあるのでプラグ穴の近くで火花確認をしないでください。またプラグ穴に手や顔を近づけないでください。**

少し時間をおいてもう一度確めましょう

車への積載のしかた

ハンドルのたたみかた

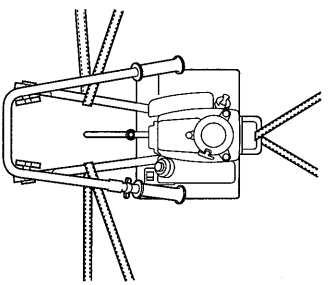
1. ハンドル固定つまみを十分にゆるめます。
2. アッパ　ハンドルを静かに前方に倒してハンドルをたたみます。
   スロットル　ワイヤ、エンジン　スイッチ　ワイヤをひっかけないように注意してください。
3. ハンドル固定つまみをゆるまないように締めます。

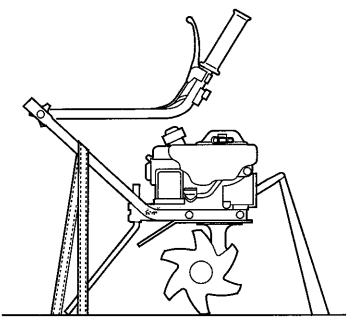


- ハンドルを伸ばすときは、逆の手順でもとの位置に戻し、ハンドル固定つまみをガタのないように確実に締付けてください。

車の荷台への積載

1. 燃料タンク、キャブレータのガソリンを抜きます(抜きかたは43頁参照)
2. 本機を車の荷台に積載します。
3. ハンドルをたたみます。(たたみかたは46頁参照)
4. ロープなどで固定します。本機が変形するような過大な荷重でロープを締付けないでください。





乗用車への積載

1. 燃料タンク、キャブレータのガソリンを抜きます。(抜きかたは43頁参照)
2. ハンドル固定つまみをゆるめ、アッパ　ハンドルをたたみます。(たたみかたは46頁参照)
3. 燃料給油キャップ、エンジン　オイル給油キャップが確実に締まっていることを確認し、左側(マフラ側)を下に倒した状態で車に積載します。本機が動かないように、ウエスなどで固定してください。

主要諸元

名称		クボタTMB200
型式		クボタTMB200
区分		J
寸機法体	全長	1,160 mm
	全幅	455 mm
	全高	960 mm
全装備重量		15.0 kg
エンジン	名称	GJAG
	内径×行程	41.8 × 36 mm
	総排気量	49 cm^3
	出力回転数	1.1 kW (1.5 PS) / 4,600 rpm
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量	0.3 ℓ
	標準点火プラグ	(DENSO) U14FS-UB (NGK) C4HSB
	点火方式	トランジスタ式マグネト点火
	エンジン オイル容量	0.25 ℓ
	始動方式	リコイル スタータ
クラッチ方式		遠心クラッチ
安全鑑定適合番号		申請中

注意:˙諸元は予告なく変更することがあります。

修理・取扱い・手入れなどは **まず，お買い上げの販売店・JAへ** ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　－
ご購入日	型式	車台（製造）番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問い合わせ下さい。

株式会社クボタ

札幌支店：電(011) 662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
仙台支店：電(022) 384-5151	〒981-1221	名取市田高字原182番地の1
東京支店：電(048) 862-1121	〒338-0832	浦和市西堀5丁目2番36号
大阪支店：電(0722) 41-8506	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
岡山支店：電(086) 279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
福岡支店：電(092) 606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘2丁目2番76号

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所：電(0188) 45-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事業所：電(022) 384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の1

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所：電(048) 862-1124	〒338-0832	浦和市西堀5丁目2番36号
新潟事業所：電(025) 285-1261	〒950-0992	新潟市上所上1丁目14番15号

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所：電(0762) 75-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-1
名古屋事業所：電(0586) 24-5111	〒491-0031	一宮市観音町1番地の1
大阪事業所：電(0722) 41-8550	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所：電(0859) 33-5011	〒683-0804	米子市米原7丁目1番1号
岡山事業所：電(086) 279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
高松事業所：電(0878) 74-5091	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所：電(092) 606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘2丁目2番76号
熊本事業所：電(096) 357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1